

## 緊急地震速報の認知度に関するアンケート調査（第1回）の結果が出ました

気象庁では5月末に緊急地震速報に関する第1回アンケート調査を実施しました。その結果、名前を知っている人は35パーセント、それに概ね聞いたことがある人を合わせると84パーセントでした。一方、知っている及び聞いたことがあると答えた人のうち、その内容を正確に理解している人は39パーセント（回答者全体の内の33パーセント）でした。

気象庁ではこの結果を踏まえ、より一層の周知・広報活動に努めて参ります。

### 1. アンケート概要

緊急地震速報の一般向け提供に備え、緊急地震速報の認知度について調査を実施。

調査実施期間：平成19年5月25日（金）～30日（水）の6日間

調査方法：インターネット調査（回収数設定型）

調査対象：全国の20歳 - 69歳男女（人口構成にあわせた比率で約2,000人から回答を得た）

### 2. 調査結果概要（詳細は別紙のとおり）

#### （1）認知度

「緊急地震速報」という名前を知っている人は35パーセント、正確な名前は覚えていないが聞いたことがあると回答した人を合わせると84パーセントであった。

この84パーセントの回答者のうち

- ・緊急地震速報の内容を正確に理解している人は、39パーセント（回答者全体のうちの33パーセント）であった。
- ・緊急地震速報の開始時期を正確に知っている人は、8パーセント。68パーセントの人は知らないと回答。

#### （2）緊急地震速報の利用の心得

緊急地震速報の利用の心得に関する質問は、緊急地震速報の解説（参考1参照）を示した後に質問した。

集客施設における行動や自動車運転中の行動ではどちらも約80パーセントの人が適切な行動を選択しているが、家庭における行動では、「何はさておき火を消す努力をする」との回答が58パーセントであり、心得にある「頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、慌てて外へ飛び出さない」との回答は39パーセントであった。

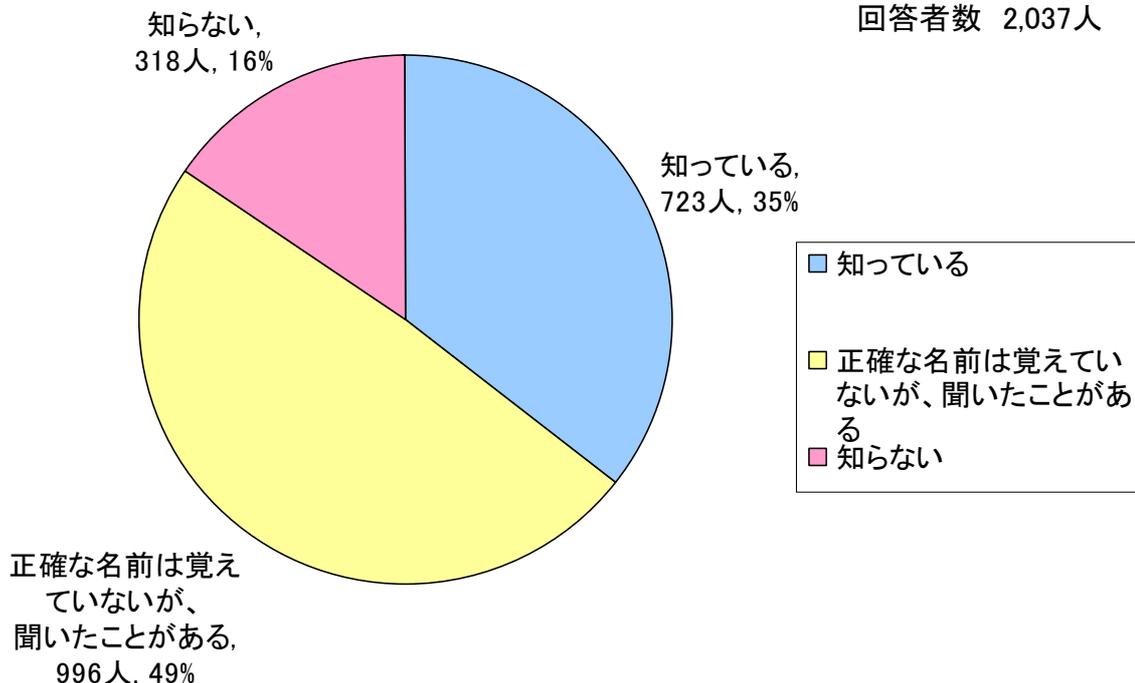
気象庁では、この結果を踏まえ、緊急地震速報の一般向け提供開始に向け、より一層、緊急地震速報に関する周知・広報活動に努めて参ります。

第2回の調査は本年8月～9月頃に実施する予定です。

問い合わせ先：気象庁地震火山部管理課（03-3212-8341 内線4505）

Q1.気象庁の「緊急地震速報」という情報の名前を知っていますか。

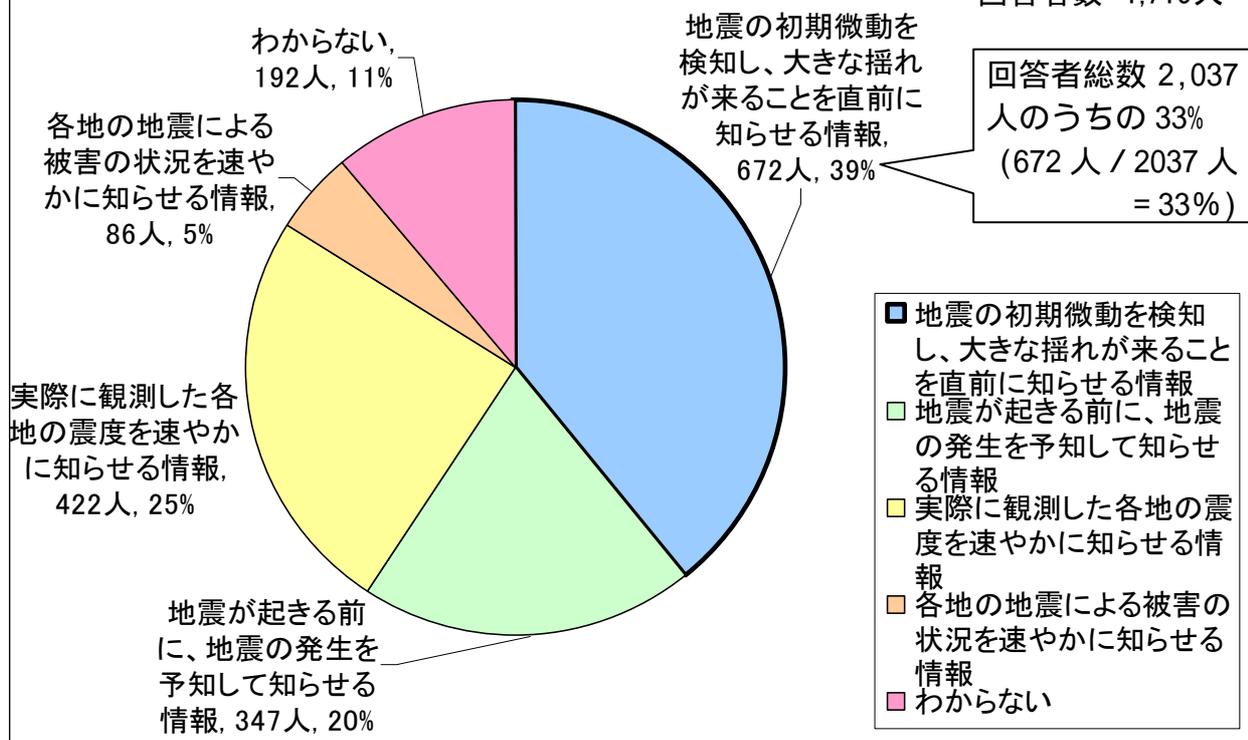
回答者数 2,037人



Q2～Q4（Q4 - 2）までは、Q1で「知っている」及び「正確な名前は覚えていないが聞いたことがある」との回答者にのみ調査。

Q2.それはどのような内容の情報ですか。

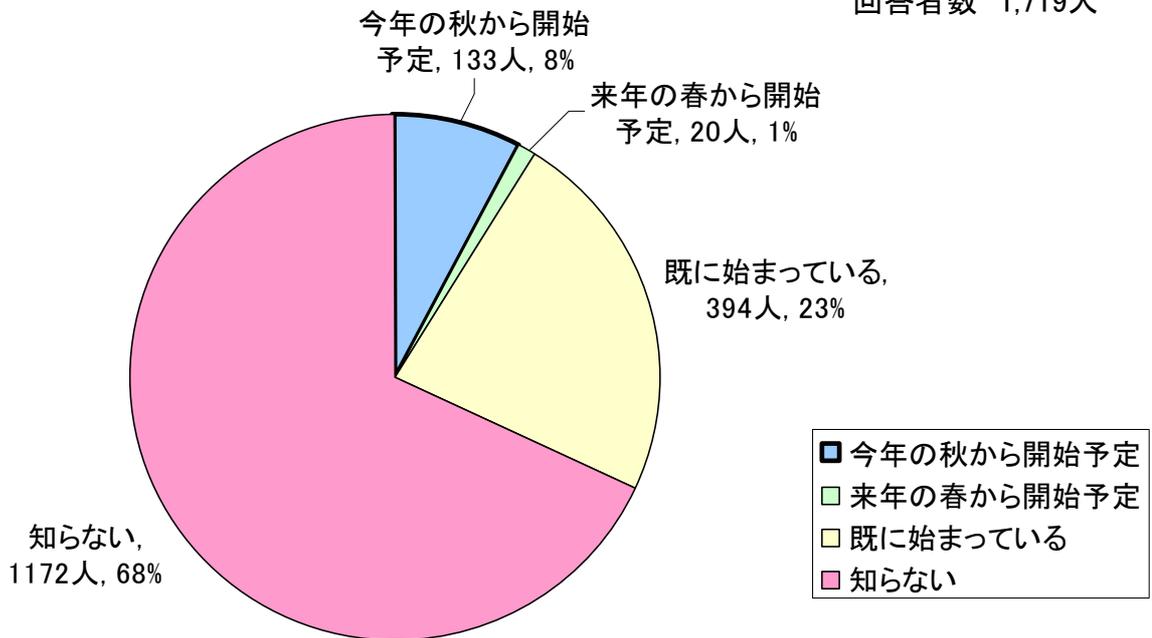
回答者数 1,719人



正解の選択肢は、円グラフの枠を太枠としている（以下同様）

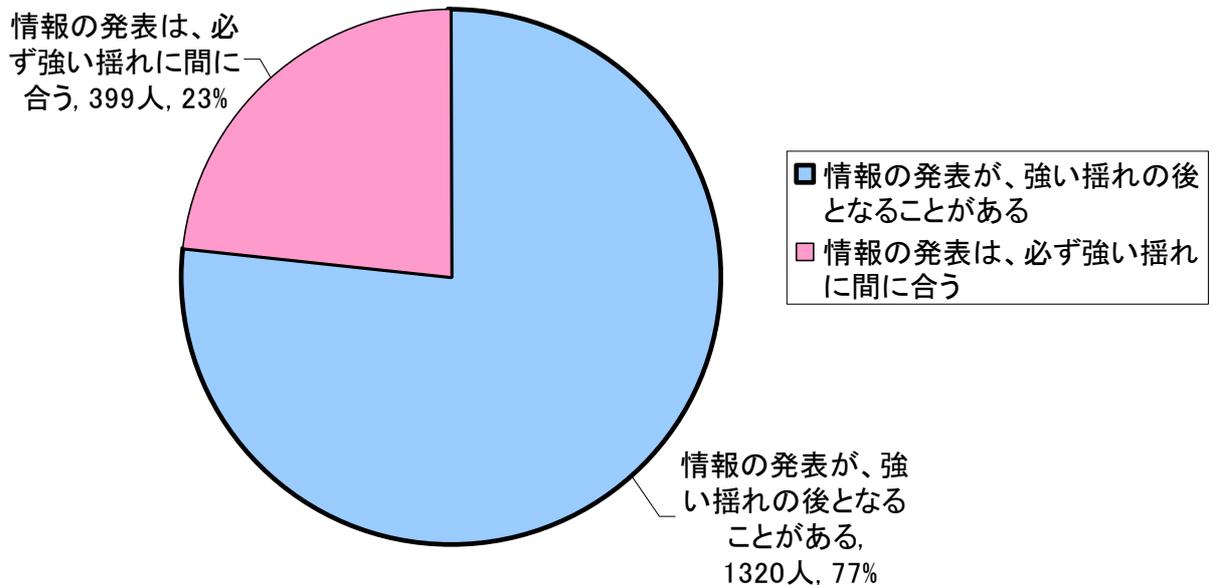
Q3.「緊急地震速報」のテレビ・ラジオなどを通じた提供が始まる時期を知っていますか。

回答者数 1,719人



Q4-1.「緊急地震速報」の原理に起因する技術的特性について正しい方はどちらですか。

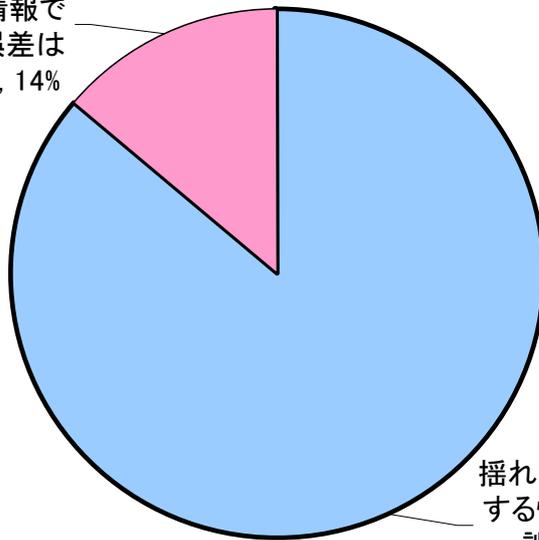
回答者数 1,719人



Q4-2.「緊急地震速報」の原理に起因する技術的特性について正しい方はどちらですか。

回答者数 1,719人

揺れの強さの実測値に基づく情報であるので、誤差はない, 238人, 14%



- 揺れの強さを予測する情報なので、誤差を伴う
- 揺れの強さの実測値に基づく情報であるので、誤差はない

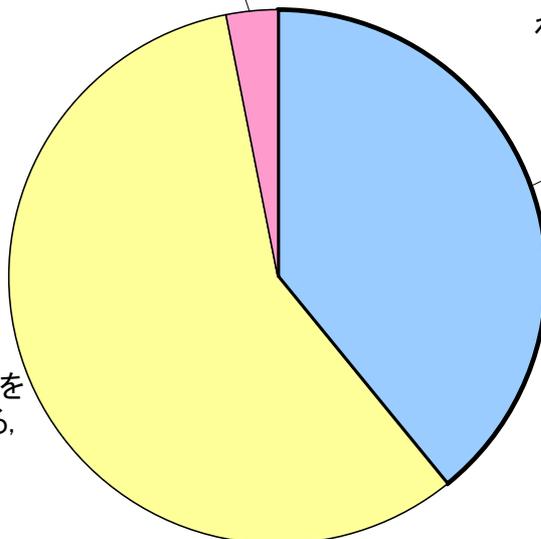
揺れの強さを予測する情報なので、誤差を伴う, 1481人, 86%

Q5-1. の前に、緊急地震速報についての解説（参考1）により、緊急地震速報を説明しています。

Q5-1. 家庭で「緊急地震速報」を受け取った際に、どの様に行動するのが一番良いと思いますか。

回答者数 2,037人

どんな状況であっても急いで建物の外に出る, 63人, 3%



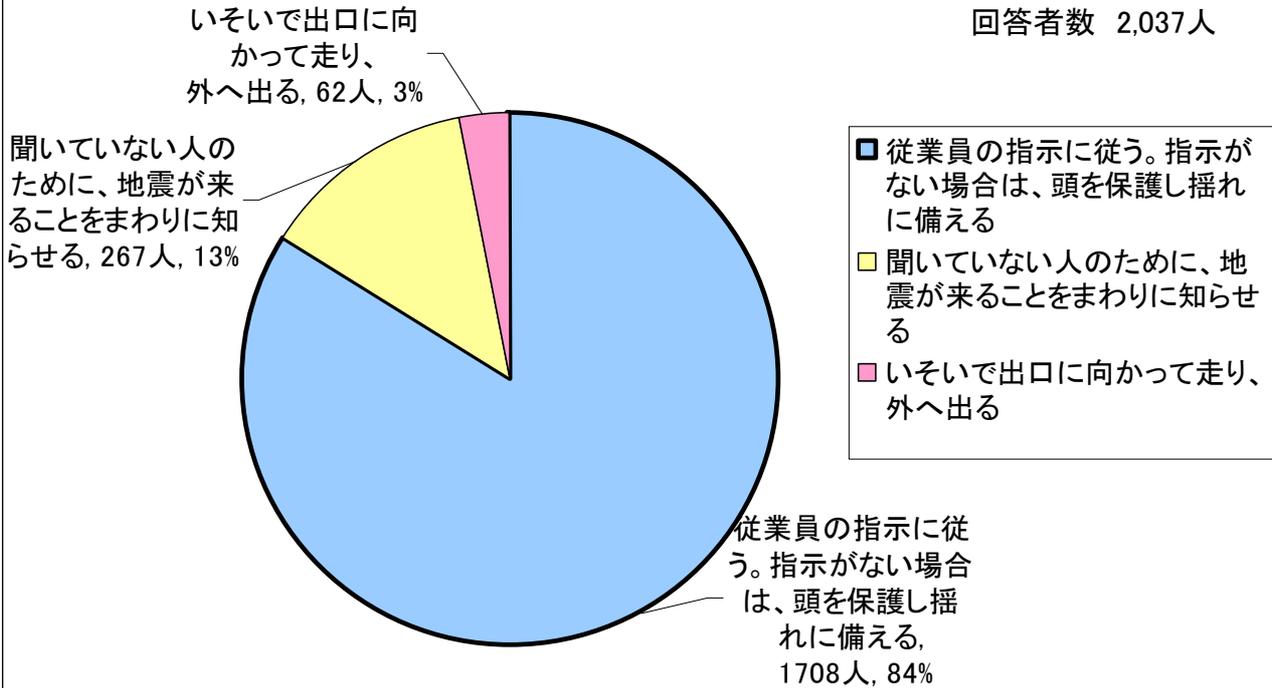
頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、慌てて外へ飛び出さない, 800人, 39%

- 頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、慌てて外へ飛び出さない
- 何はさておき火を消す努力をする
- どんな状況であっても急いで建物の外に出る

何はさておき火を消す努力をする, 1174人, 58%

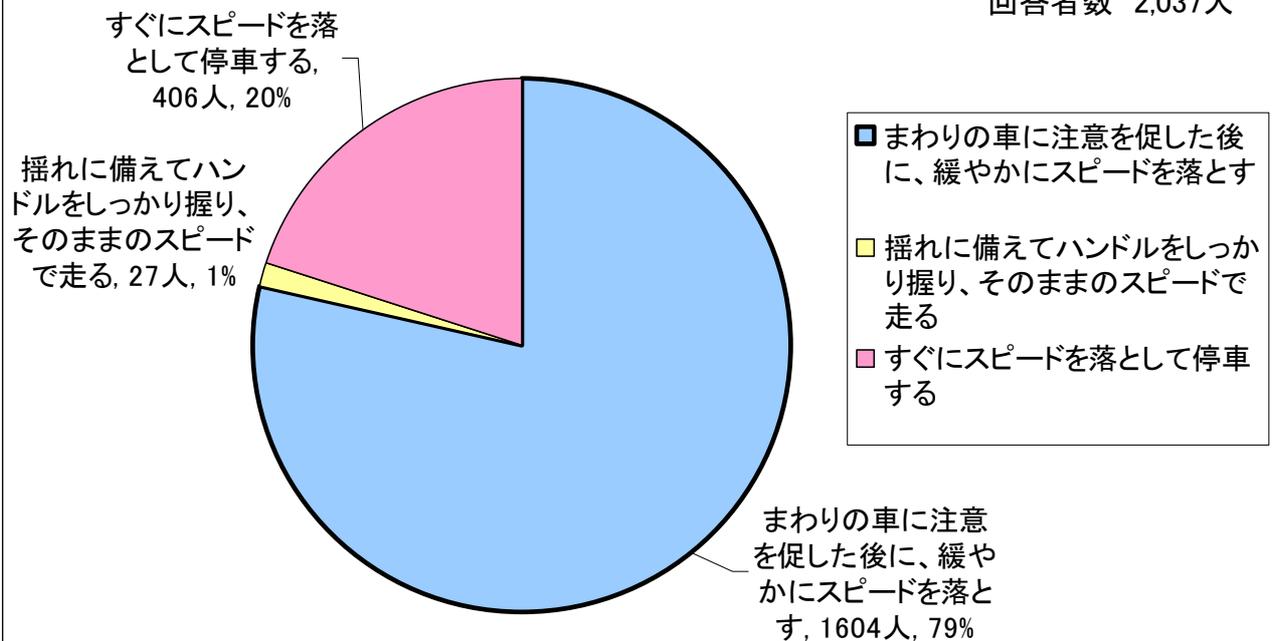
Q5-2.人がおおぜいいる施設で「緊急地震速報」を受け取った際に、どの様に行動するのが一番良いと思いますか。

回答者数 2,037人



Q5-3.自動車運転中に「緊急地震速報」を受け取った際に、どの様に行動するのが一番良いと思いますか。

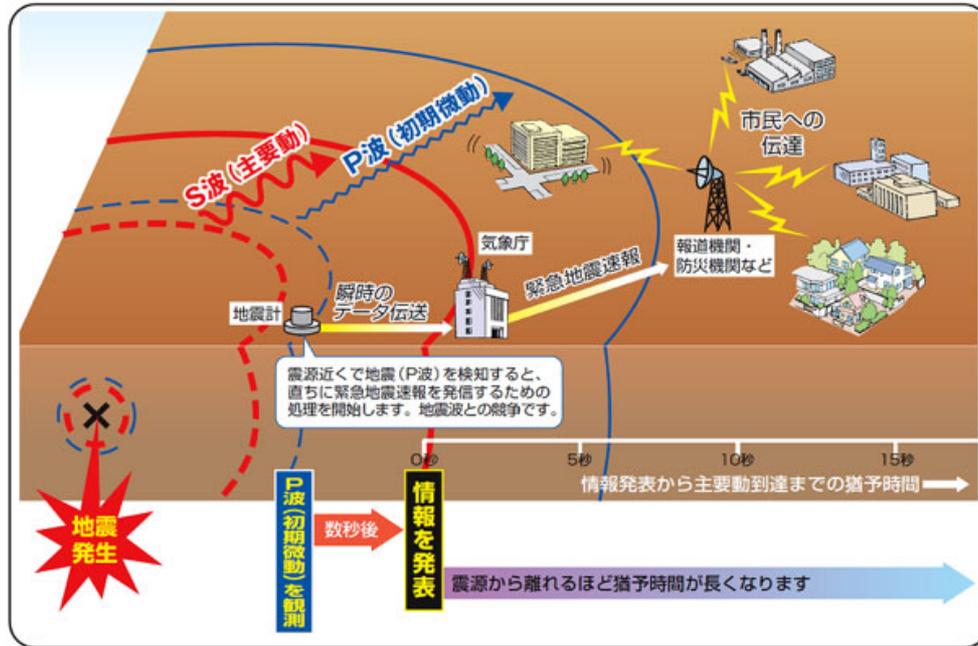
回答者数 2,037人



## 緊急地震速報の解説

地震がおそろしい理由のひとつは、突然おそってくることです。自分のいる場所が強く揺れ始める前に、「もうじき揺れます」というお知らせがあれば、事前に身構えることで、被害を減らすことができます。これを可能にするのが、気象庁が中心となり一般向け提供開始に向けて取り組んでいる「緊急地震速報」という新しい地震情報です。

「緊急地震速報」は、震源に近い観測点で地震（P波、初期微動）を検知し、直ちに震源や地震の規模（マグニチュード）、各地の震度などを推定し、強い揺れ（S波、主要動）が迫っていることをお知らせする情報です。



上の図を見てください。地震の揺れは秒速数キロの速さで地面を伝わっていきます。震源(図の×印)の近くで地震の揺れ(地震波)を観測して瞬時に解析すれば、より遠くの地域に揺れの到来をお知らせすることができます。加えて地震波は、早く伝わるけれど弱い揺れのP波(初期微動)とそれより遅いけれど強い揺れのS波(主要動)があるので、先にやってくるP波(初期微動)を震源近くで観測して、後でやってくるS波(主要動)の到来をより遠くの地域へお知らせすれば、数秒から数十秒の猶予時間をもって地震の到来をお知らせできるのです。

気象庁は、本年9月頃からの「緊急地震速報」の一般向け提供開始を計画しています。

## 【参考2】

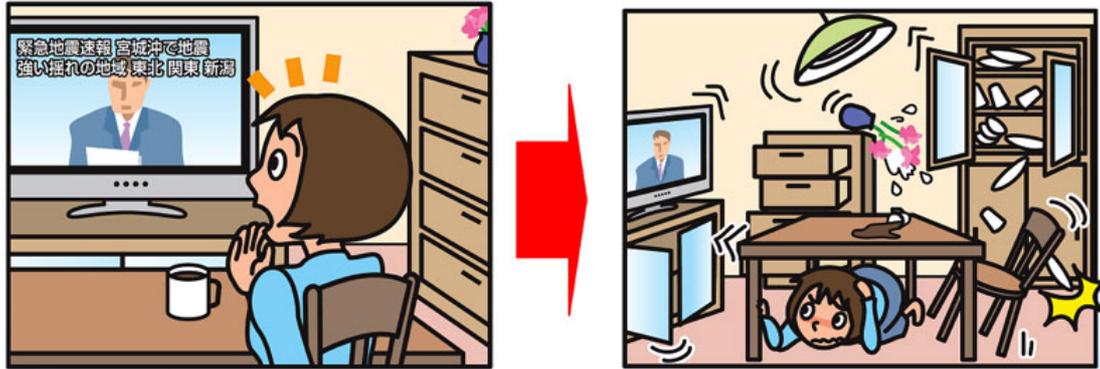
### アンケートの最後に掲示した緊急地震速報利用の心得の解説

#### 緊急地震速報利用の心得の解説

「緊急地震速報」は強い揺れがくることをお知らせする情報ですが、「緊急地震速報」をお知らせしてから強い揺れが来るまでの時間は、**数秒から数十秒**しかありません。内陸の浅い地震などの震源の近くでは、「緊急地震速報」でお知らせするより先に強い揺れが来てしまうこともあります。

それでは、「緊急地震速報」を見聞きした時には、どうすれば良いでしょうか。『**周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する。**』ことが全ての基本になりますが、自分がどこにいるのかにより、とるべきことが若干異なります。

家庭においては、頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れ、身の安全を守ることが最も大事です。強い揺れが来るまでの時間は非常に短いので、急いで外に飛び出すことはかえって危険です。料理中でたまたまコンロの前に立っていたら、直ぐに火を消せませんが、離れたところにいる場合、無理にコンロへ走っていくと転んでケガをするかもしれませんので、何はさておき、自分の身を守ることを優先して下さい。



人がおおぜいいる施設（デパートなどの集客施設）でも、まずはあわてずに、従業員の指示に従いましょう。従業員から指示がない場合は、身の安全を守るために、頭を保護し、揺れに備えて身構えるなど安全な姿勢をとりましょう。あわてて非常口や出口に殺到することは大変危険です。また、大声で「地震が来るぞ！」と叫ぶことも、混乱を助長することとなるのでやめて下さい。



「緊急地震速報」は、テレビ・ラジオ等を通じてお伝えする予定です。自動車運転中に「緊急地震速報」を聞いた場合に、あわてて急ブレーキを踏み停車すると、「緊急地震速報」を後続の車が聞いているとは限りませんので、後続の車が追突するおそれがあります。そのため、あわてて急ブレーキはかけずに、ハザードランプを点灯するなどして、まわりの車に注意をうながした後に、緩やかにスピードを落とすことが重要です。大きな揺れを感じたら、できるだけ安全な方法により、道路状況を確認して左側に停止させてください。



詳しくは、[気象庁のホームページ](#)の「緊急地震速報」の解説ページに掲載している「緊急地震速報」を見聞きした時はこちらをご覧ください。